

算数オンライン塾 6月2日の問題 解説

(1)

S 中学→K 駅まで 12 分 14 時 8 分 16 分 24 分 32 分…

S 中学→M 駅まで 14 分 14 時 5 分 10 分 15 分 20 分 25 分 30 分 …

14 時 15 分に出ると K 駅に 14 時 27 分ですから、14 時 32 分

M 駅は 14 時 29 分ですから、14 時 30 分

K 駅は待ち時間が 5 分、M 駅は待ち時間が 1 分です。

(答え) M 駅の方が 4 分短い。

(2) 5 分と 8 分の最小公倍数は 40 分です。

K 駅 8、16、24、32、40

M 駅 5、10、15、20、25、30、35、40

M 駅が K 駅よりも 2 分遅い時間は、8 分→10 分しかありません。したがって、次は 14 時 48 分と、14 時 50 分。14 時 36 分にできるまでは同じです。

一方、その 5 分前である 14 時 31 分にできると、M 駅 14 時 45 分に間に合うので同じ待ち時間になりません。しかし 31 分 1 秒に出ると間に合いませんから、31 分と答えま

(答え) 14 時 31 分～14 時 36 分

(3) 36 分間の間に、K 駅の待ち時間が短いのが 10 分間あります。

出発	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
K 駅	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
待	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2
M 駅	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
待	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3
	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
1	0	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0
33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

したがって残り 24 分間では 8 分間あるので合計 18 分間

(答え) 18 分間